

地球電磁気・地球惑星圏分野における有期限雇用研究職のアンケート調査報告

Report on current situation of limited term researchers in the field of geomagnetism and earth, planetary and space sciences

長妻 努 [1]

Tsutomu Nagatsuma[1]

[1] NICT

[1] NICT

ポスドク1万人計画が始まって10年が経ち、その数は、すでに2万人近くとなった。ポスドク制度は、一見我が国に定着しつつあるように見えるが、制度に対する意識や考え方の実態に関する情報は極めて少ない。ポスドク制度は博士号を取得した若手研究者に時限的・競争的な研究環境下で研究成果を挙げ、更なるキャリアアップを図るための環境というポジティブな側面がある一方、国立大学法人や独立行政法人の人件費が一律に削減される状況の中、成果創出の時限的即戦力の役割をも期待されながら、その後の進路は不透明というネガティブな側面も見え隠れしている。

ポスドクは、研究活動に加えて結婚・出産・育児が重なる世代でもあり、この世代が適切に処遇され、次のキャリアへとステップアップしていくことは、科学技術分野の持続的な発展、新しい学術の創出、さらには科学技術分野における男女共同参画を推進する上でも必要不可欠である。

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS) 男女共同参画検討・提言ワーキンググループでは、当該分野の有期限雇用研究職 (ポスドク等) の現状とその問題点を明らかにするため、2006年10月から11月にかけてアンケート調査を実施した。設問内容の検討や集計・分析には若手研究者有志も参加した。有期限雇用研究職の実態と、それに関する意識の調査を目的とした本アンケートには、設問が多岐に渡っていたにもかかわらず、様々な世代・職種・所属等の研究者、合計152名 (内、SGEPSS会員137名) から回答が寄せられた。この回答者数は、会員総数の約20%である。本アンケート調査の集計・分析結果から見てきた地球電磁気・地球惑星圏分野における有期限雇用職の状況について報告する。なお、調査結果の詳細については、ポスター発表 (地球電磁気・地球惑星圏分野における有期限雇用研究職のアンケート調査報告 ~様々なデータが我々に示しているもの~) にて報告を行う。